

彩の国シニアコーラスフェスタ 2024 理学療法士とともに

埼玉県合唱連盟では、**合唱と健康の集い実行委員会** (愛称:うたけん)主催のシニア向け合唱祭を開きます。

- 11月25日(月)
- 所沢市民文化センターミュージ
- 入場無料



昨年11月誕生した合唱と健康をテーマにしたシニアのための合唱祭を今年も開催します。参加資格は自称50歳以上で構成する合唱団、県合唱連盟への加盟は問いません。また、フェスタで歌う個人参加の**プラチナ合唱団**の練習も始まっています。

●プラチナ合唱団演奏曲 (混声四部合唱)

「Greetings」 清水雅彦作詩/千原英喜作曲

「言葉は」 谷川俊太郎作詩/信長貴富作曲

『合唱は生涯学習。シニアの方々にいつになっても歌い続けて欲しい。立ち続けることが大変になったら座ればいい。豊かな経験に基づいた詩の理解がある。共に年齢を重ねた仲間と長く楽しく歌い続けてほしい。』がコンセプトです。「歌を歌う」ことがどれほど健康に良いか、簡単な体操や身体を動かす方法を理学療法士の先生に教えていただき、高齢化社会に向かっているかに健康に楽しく過ごすか実践することが目的です。

講師には、岸信介先生(前全日本合唱連盟理事長・合唱指揮者)、宮寺勇先生(埼玉県連顧問)、大岩篤郎先生(同顧問)をお招きしています。フェスタの詳細は下記の埼玉県合唱連盟ホームページをご覧ください。

<https://sclfrom1957.wixsite.com/utatokenkou>

埼玉県合唱連盟では、2017年に「シニア委員会」を立ち上げ併せて**プラチナ合唱団**を結成し、高齢者を対象とする合唱に取組み始めました。2023年からは内容拡充を目指し、合唱関係者に加え医療関係者にも協力を仰ぎ**合唱と健康の集い実行委員会**を発足しました。

昨年の第1回大会は、埼玉県連とシニア委員会の共催で開催しましたが、今年度からは同実行委員会が主催して開催いたします。同実行委員会では、大きな大会以外にも、地域の小さなコミュニティで「歌の会」や「健康体操」などを開催し、高齢化社会に必要なとされる活動を行っていく計画です。

部活動「地域移行」から「地域展開」へ

文化庁
第3回WG
地域文化芸術創造と部活動改革

文化庁は10月24日、第3回「地域文化芸術活動ワーキンググループ」を開催し、中間とりまとめを行いました。

主な目的は「将来にわたって子供たちが継続的に文化芸術活動に親しむ機会を確保する」ことです。これまでの活動状況から「地域移行」という名称を「地域展開」へ変更することも掲げられました。

意欲ある地方公共団体での取組は着実に進み、すでに休日の地域移行を完了したところもあり、今後も改革が進むと見込んでいます。これから取り組む地方公共団体では、先行事例を踏まえ、まずは**休日の改革**へ取り組むことなどを求めています。また、地方公共団体では専門部署設置や総括コーディネーター配置など推進体制の整備が重要とされました。

地域移行(地域展開)のメリット・デメリット

地域移行によって、子どもと学校・教員双方にメリットが期待できます。たとえば、スポーツならば、自校だけでは人数不足でできなかった種目も、地域で複数校の生徒が集まれば可能になる場合があります。また、専門スキルのない教員が指導するケースが多いのに対して、地域ではスポーツクラブの指導者や専門家から指導を受けられる可能性が広がります。文科省の調査では、教員の約8割が部活動の顧問を担当していて、その約8割が週4日以上活動しているといえます。地域移行により、教員の勤務時間短縮や業務負荷の軽減につながる事が期待されています。

いっぽうデメリットもあります。□**地域の受け皿の問題**：移行した地域に適切な指導者がいない、練習場所がない、といった可能性があります。□**子どもたちの居場所が減る**：放課後や週末を過ごすために部活動に参加している中学生は、学校に部活動があるから部活動に参加しており、代わりのクラブや団体が地域にできても、学校の部活動の代わりに入るとは限りません。すると、一部の子どもにとって居場所がなくなる可能性があります。□**保護者の負担増**：従来は学校内の人材や設備を使っていたのが、外部でやれば新たな費用が発生し、それを保護者が負担するとなれば、部活動が事実上有料化してしまいます。□**指導者の過熱化**：地域移行によりプロが指導にあたることで、長時間の厳しい練習を課し、本来の教育目的から外れる危険性も出てきます。そうならないためには、部活動の目的や意義を外部指導者に対しても確実に伝え、安全に活動できるようにする必要があります。